

科 目 名	公衆衛生学Ⅱ					開 講 キャンパス	神 埼					
担 当 者	横 尾 美智代											
開 講 年 次	2	開講期	前期	単位数	2	必修・選択	必 修					
授業の概要 及びねらい	「公衆衛生学Ⅱ」では「公衆衛生学Ⅰ」での学びを踏まえた講義を展開する。前半は暴露効果の測定やスクリーニングの精度など健康リスクの評価手法の基本を習得させる。後半では、健康づくり運動の変遷と現状、感染症についてはメカニズムから予防戦略まで詳説する。											
授 業 の 到 達 目 標	教科書P.83 - P.215 1. 罹患率、有病率の用例、違いを説明できる 2. 疫学の手法を理解し、ジョン・スナーの功績について述べることができる 3. 疫学研究法を列挙し、それぞれの特徴と適用例について説明できる 4. 健康リスクの評価方法を理解し、暴露効果の測定ができる 5. スクリーニングの意義と倫理的注意点について理解し、精度を算出できる 6. 健康の病因的モデルと生物心理社会モデルの違いについて自分の言葉で説明できる 7. エビデンスレベルの意味を理解し、研究手法との関係性を説明できる 8. 我が国の健康に関する施策の変遷を理解し、「健康日本21」の特徴について説明できる 9. 感染症の危険性、問題点を理解し、対策を説明できる 10. 途上国の感染症に关心を持つ											
学 習 方 法	講義形式 前時の学習内容の定着を評価するために毎時、小テスト（10点満点）を課す。											
テキスト及 び参考書等	1. 田中平三、徳留信寛他編、『健康・栄養科学シリーズ 社会・環境と健康（改定第3版）』 南江堂 2. 厚生労働統計協会編、『国民衛生の動向（2013／2014）』厚生労働統計協会											
評 価 基 準 ・ 方 法	到 達 目 標 <table border="1"> <tr> <th>知識・理解</th> <th>思考・判断</th> <th>関心・意欲・態度</th> <th>技能・表現</th> <th>評価割合%</th> </tr> </table>							知識・理解	思考・判断	関心・意欲・態度	技能・表現	評価割合%
知識・理解	思考・判断	関心・意欲・態度	技能・表現	評価割合%								
定期試験	◎	○					90					
小テスト等												
宿題・授業外レポート												
授業態度			◎				10					
受講者の発表												
授業への参加度												
その他の評価基準												
合 計							100					
(表中の記号 ○評価する観点 ◎評価の際に重視する観点)												
授業計画（学習内容・キーワードとスケジュール）												
第 1 週	その病気は突然襲ってきたのか？：疾病頻度の指標—罹患率と有病率を中心に—											
第 2 週	疫学とは何か？：ジョン・スナーの功績											
第 3 週	喫煙群と非喫煙群では疾患にかかるリスクはどれくらい高い？：コホート研究からわかること											
第 4 週	罹患群と対照群では何が違う？どれだけ違う？：症例対照研究からわかること											
第 5 週	リスクを計算してみよう：相対危険度、寄与危険度、オッズ比の算出練習											
第 6 週	子どもの死亡例を半減させたものは日用品だった？：難民キャンプでの介入研究											
第 7 週	疫学研究とエビデンスレベル、因果関係の考え方											
第 8 週	スクリーニング検査の有効性と精度											
第 9 週	生物心理社会モデルからみた「健康」											
第 10 週	我が国の“これまでの”健康づくり運動：第一次健康日本21とその評価まで											
第 11 週	我が国の“これからの”健康づくり運動：第二次健康日本21の目指すもの											
第 12 週	疫学的視点からみた生活習慣病の原因と対策：悪性新生物、心疾患、脳血管疾患											
第 13 週	感染症とは何か？：感染のメカニズム、感染の成立、もう一度ジョン・スナー											
第 14 週	感染症の疫学：日本の流行状況、途上国の流行状況											
第 15 週	感染症から人々を守る方略：予防接種、感染症予防法による対策、学校感染症の出席停止基準											
第 16 週	試験											
備 考	1. 授業準備：事前学習として、指示された箇所の教科書を通して授業に臨むこと。事後学習としては、受講ノートを整理し小テストに備えること。 2. 板書による講義を行う。ノート（ルーズリーフ可）、蛍光ペン、ポストイットを準備すること。 3. 毎回実施する小テストは定期試験の内容の一部に組み込まれる。 4. 私活厳禁、講義中の入退室厳禁。携帯電話、スマートは鞄の中へ入れた上で受講すること。											